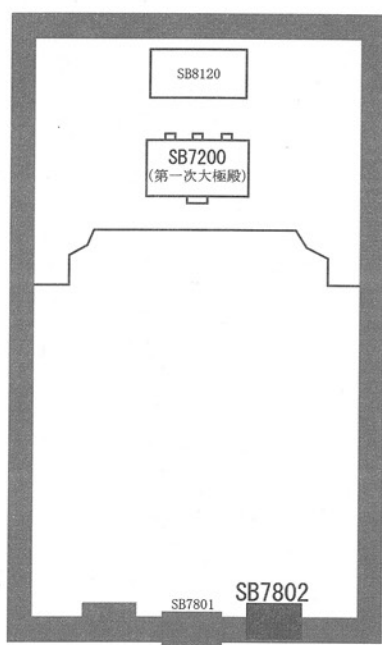


一九七七年以前出土の木簡（二三）

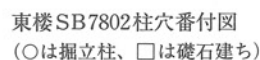
奈良・平城宮跡 へいじょうきゅう

- 1 所在地 奈良市佐紀町
 - 2 調査期間 第七七次調査 一九七三年（昭48）一月～四月
 - 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
 - 4 調査担当者 代表 坪井清足
 - 5 遺跡の種類 都城跡
 - 6 遺跡の年代 奈良時代
 - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
調査地は第一次大極殿院南門・南面築地回廊にあたる場所で、調査面積は四二二〇㎡である。
- 検出した主な遺構は、平城宮造営以前の下ツ道東側溝SD七七七八、大極殿院南門SB七八〇一、大極殿院南面築地回廊SC五六〇〇、楼閣建物SB七八〇二、東西溝SD五五九〇などである。
- 木簡は楼閣建物SB七八〇二の柱抜取穴から出土した。SB七八〇一はI期の大極殿院南門SB七八〇一の東側、南築地SC五六〇



第一次大極殿院概念図

○にとりつくように建てられた五間×三間で総柱の東西棟建物である。総柱のうち側柱を掘立柱、内部の柱を礎石建ちとする。掘立柱掘形は、三・五×二・五m、深さ二・七五mという超大型のものであり、柱自身も出土した柱根は径七五cmという宮内最大のものである。SB七八〇二は、層位および木簡などから、第一次大極殿院の最初の改修時（Ib期）から天平勝宝五年まで存在したと考えられる。一五箇所ある柱穴の内、一二箇所から計二四（うち削り屑一五

東樓 SB7802 柱穴別木簡出土点数一覽

この他、木簡状木製品が一三点出土している。

楼阁建物SB七八〇二柱拔取り イ

- (1) 應修理正倉□

右 肥後国 山鹿郡

『妙
法
蓮
華』

(87) $\times 24 \times 3$ 081 *

- (2) 「答志郷奈弓米三〇〔斤力〕 (105)×20×3 019

楼阁建物SB七八〇二柱拔取り イ四

- (3) 殿守二升
[之國庭力]
英田郡國肥後國

合志郡 〔鳥嶋力〕
☐ ☐ 郷余 ☐
☐ ☐ ☐

英田郡

[illegible]

楼阁建物SB七八〇二柱拔取り イ五

- (4) $\lceil \vee \text{右家五} \rceil$ $(64) \times 17 \times 3$ 039

楼阁建物SB七八〇二柱拔取り イ六

- (5) 馬甘赤 $(56) \times 15 \times 5$ 019

楼阁建物SB七八〇二柱拔取り 口一

- (6) 〔伊豆国田方郡棄妾郷戸主春〕 (176) × 32 × 5 039

楼阁建物SB七八〇二柱拔取り 口六

- (22) 「▽」下部土麻呂 (88)×23×3 039
- (23) ×^{〔国力〕}久米郡衛士養物錢六百文 (153)×19×4 059
- (24) 都々美 (83)×(13)×2 081
- (25) □万呂 091
- 樓閣建物SB七八〇二柱拔取り 二五
- (26) ・□□□□解申□□□□□□
 ・矢祢万呂所^{欲処}珠女
 □□□□□□□□□□□□□□
 (763)×(12)×2 081
- (27) ・□□廣道人成大□
 ・五人常食^{〔急充力〕}□□廿五日^{〔急充力〕}
 (107)×13×4 019
- (28) ・「牛甘 真足 廣道 大食」
 ・「合四人」
 (177)×29×4 019
- (29) 荒嶋 合二人 (183)×(15)×9 081
- (30) 勝寶五年正月 (83)×6×2 081

- (31) ・□ (125)×13×3 081
- ・×年正月廿八日
- (32) ・春部氣万呂
 ・□□□□□□
 (裏面天地逆)
 (230)×22×5 081
- (33) ・□ 日下部久治良□
 ・計 □□□□ □
 (148)×23×2 081
- (34) 「▽」県馬養 (156)×16×7 039
- (35) 「▽」湯坐連野守[▽] 276×37×4 031
- (36) 「▽」衛門府 126×15×4 032
- (37) 日久米□□^{々々々々} 091
- (38) 進衣 (105)×24×4 019
- (39) ^{〔諭力〕}諭 昨万呂 ^{〔廣力〕}□ (140)×(22)×2 081
- (40) 「▽」大^{〔續麻力〕}大^{〔麻力〕} (100)×16×4 039

(馬場基)